

FUJITSU Network SR-M Webリファレンス

V03

はじめに

このたびは、本装置をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
無線LANを使用した安全なネットワークを構築するために、本装置をご利用ください。

2016年 6月初版

2017年 7月第2版

本ドキュメントには「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれています。
従って本ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。
Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。
Copyright FUJITSU LIMITED 2016 - 2017

目次

はじめに	2
本書の使いかた	4
本書の読者と前提知識	4
本書における商標の表記について	5
本装置のマニュアルの構成	6
1 「設定メニュー」を表示する	7
2 「設定メニュー」の画面体系	8
2.1 かんたん設定メニュー	8
2.2 基本設定メニュー	8
3 無線 LAN 設定情報	9
3.1 必須設定	9
3.2 オプション設定	14
3.2.1 MAC フィルタリング情報	14
4 パスワード情報	15
4.1 基本情報	15
4.2 ログインパスワード情報	16
5 装置情報	17
5.1 装置名称情報	17
5.2 タイムサーバ情報	18
5.3 装置ランプ情報	19
6 スケジュール情報	20
6.1 構成定義切り替え予約情報	20
索引	21

本書の使いかた

本書では、本装置の設定メニューで表示される画面について説明しています。

本書の読者と前提知識

本書は、ネットワーク管理を行っている方を対象に記述しています。

本書を利用するにあたって、ネットワークおよびインターネットに関する基本的な知識が必要です。

ネットワーク設定を初めて行う方でも「機能説明書」に分かりやすく記載していますので、安心して読みいただけます。

マークについて

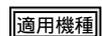
本書で使用しているマーク類は、以下のような内容を表しています。

 **ヒント** 本装置をお使いになる際に、役に立つ知識をコラム形式で説明しています。

こんな事に気をつけて 本装置をご使用になる際に、注意していただきたいことを説明しています。

 **補足** 操作手順で説明しているもののほかに、補足情報を説明しています。

 **参照** 操作方法など関連事項を説明している箇所を示します。

 **適用機種** 本装置の機能を使用する際に、対象となる機種名を示します。

 **警告** 製造物責任法 (PL) 関連の警告事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。

 **注意** 製造物責任法 (PL) 関連の注意事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。

本書における商標の表記について

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

製品名の略称について

本書で使用している製品名は、以下のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows® 7 64bit Home Premium	Windows 7 または Windows
Microsoft® Windows® 7 32bit Professional	

本装置のマニュアルの構成

本装置の取扱説明書は、以下のとおり構成されています。使用する目的に応じて、お使いください。

マニュアル名称	内容
SR-M50AP1 ご利用にあたって	SR-M50AP1の設置方法やソフトウェアのインストール方法を説明しています。
コマンドユーザズガイド	コマンドを使用して、時刻などの基本的な設定またはメンテナンスについて説明しています。
コマンドリファレンス	コマンドの項目やパラメタの詳細な情報を説明しています。
コマンド設定事例集	コマンドを使用した、基本的な接続形態または機能の活用方法を説明しています。
機能説明書	本装置の便利な機能について説明しています。
トラブルシューティング	トラブルが起きたときの原因と対処方法を説明しています。
メッセージ集	システムログ情報などのメッセージの詳細な情報を説明しています。
仕様一覧	本装置のハード／ソフトウェア仕様とMIB/Trap一覧を説明しています。
Web ユーザズガイド	Web 画面を使用して、時刻などの基本的な設定またはメンテナンスについて説明しています。
Web リファレンス (本書)	Web 画面の項目の詳細な情報を説明しています。

1 「設定メニュー」を表示する

[設定] タブをクリックしたときに表示される「設定メニュー」について説明します。

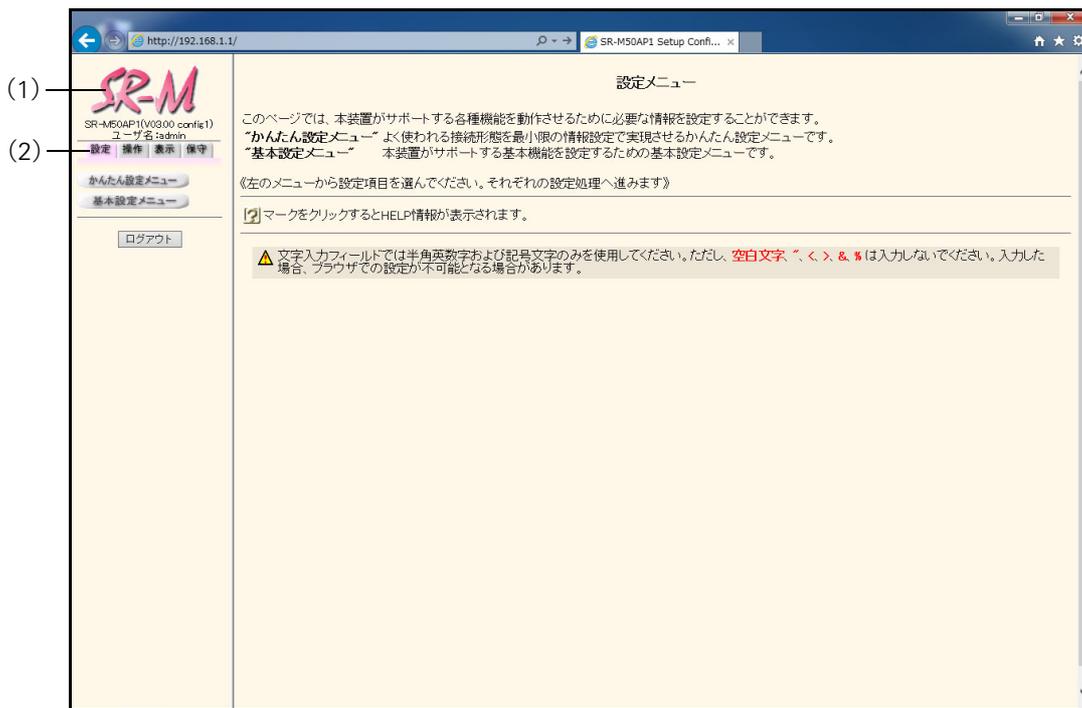
こんな事に気をつけて

「設定メニュー」を表示するときは、管理者 (admin) でログインしてください。

☛ 参照 マニュアル「Web ユーザーズガイド」



WWWブラウザのタイトルバーには、初期状態で機種名が表示されます。
基本設定メニュー「装置情報」-「装置名称情報」の装置名称を設定することで表示内容を変更できます。



画面左側に表示されるタブについて、以下に説明します。

- (1) 本装置ロゴ : クリックすると、トップページが表示されます。
- (2) [設定] タブ : クリックすると、設定メニューが表示されます。
設定メニューには「かんたん設定メニュー」と「基本設定メニュー」があります。

☛ 参照 [操作] タブ、[表示] タブおよび [保守] タブについて
マニュアル「Web ユーザーズガイド」の「操作メニュー」、「表示メニュー」、「保守メニュー」に関する記述

こんな事に気をつけて

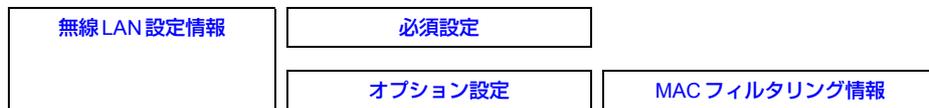
文字入力フィールドでは、半角文字 (0~9、A~Z、a~z および記号) だけを使用してください。ただし、空白文字、「」、<、>、「&」、「%」は入力しないでください。

☛ 参照 マニュアル「Web ユーザーズガイド」の「文字入力フィールドで入力できる文字一覧」

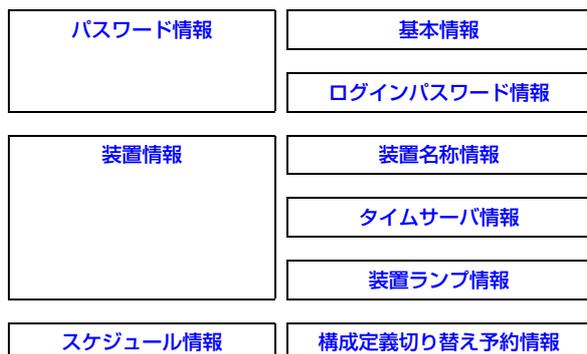
2 「設定メニュー」の画面体系

[設定] タブをクリックして表示される設定用メニューの画面項目と体系について示します。

2.1 かんたん設定メニュー



2.2 基本設定メニュー



3 無線 LAN 設定情報

適用機種 SR-M50AP1

[操作] かんたん設定メニュー「無線 LAN 設定情報」

無線 LAN 設定情報 必須設定	オプション設定
----------------------------	---------

こんな事に気をつけて

「かんたん設定」は簡単な初期セットアップを行う場合にだけ使用し、設定変更には使用しないでください。
 「かんたん設定」を行うと、「かんたん設定」で設定できる項目以外の設定情報（ログインパスワードを除く）が、すべて初期化されます。

3.1 必須設定

[操作] かんたん設定メニュー「無線 LAN 設定情報」→ [必須設定]

■必須設定	
 コマンドおよび基本設定で設定した情報は無効となります。	
装置 IP アドレス情報	192.168.1.1
ネットマスク	24 (255.255.255.0) ▼
デフォルトルート	192.168.1.10
無線 LAN 共通	
無線 LAN アンテナ	<input checked="" type="radio"/> 内蔵 <input type="radio"/> 外付け
2.4GHz 帯無線 LAN	
チャンネル	11b/11g/11n ▼
無線送信出力	40(最大) ▼ × 0.5 (dBm)
SSID 非通知 (ステルス機能)	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
フラッシュ プロテクション 機能	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
チャンネルボンディング	<input checked="" type="radio"/> 20MHz <input type="radio"/> 40MHz
5GHz 帯無線 LAN	
チャンネル	11a/11n/11ac ▼
	<input type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 周波数帯 W52 36 ▼ <input type="radio"/> 周波数帯 W53 52 ▼ <input checked="" type="radio"/> 周波数帯 W56 100 ▼
無線送信出力	40(最大) ▼ × 0.5 (dBm)
SSID 非通知 (ステルス機能)	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
フラッシュ プロテクション 機能	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
チャンネルボンディング	<input type="radio"/> 20MHz <input type="radio"/> 40MHz <input checked="" type="radio"/> 80MHz

SSID	samplenet	
認証モード	OPEN	
WEPを使用した通信	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない	
WEPキー	1 16進数
	2 16進数	
	3 16進数	
	4 16進数	
	使用WEPキー	1

“かんたん設定”では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

選択する値によって、画面が変わります。

装置IPアドレス／ネットマスク

このインタフェースのIPアドレスとネットマスクを指定します。

有効範囲)

1.0.0.1 ~ 126.255.255.254

128.0.0.1 ~ 191.255.255.254

192.0.0.1 ~ 223.255.255.254

こんな事に気をつけて

IPアドレスに0.0.0.0を指定すると通信ができなくなります。

デフォルトルート

あて先ネットワークとしてデフォルトルートを設定する場合に指定します。

2.4GHz 帯無線 LAN

無線通信モードを選択します。

- 使用しない
- 11b/11g/11n
- 11b/11g
- 11b
- 11g/11n
- 11g

5GHz 帯無線 LAN

無線通信モードを選択します。

- 使用しない
- 11a/11n/11ac
- 11a/11n
- 11a

チャンネル

無線 LAN で使用するチャンネルを選択します。

また、通信モードにより指定可能な値の範囲が異なります。

- 11bの場合
自動選択および1～14の範囲で選択します。
- 11b/g/n、11b/g、11g/n、11gの場合
自動選択および1～13の範囲で選択します。
- 11a、11a/n、11a/n/acの場合
自動選択および以下の中から選択します。

周波数帯	チャンネル番号
W52	36、40、44、48
W53	52、56、60、64
W56	100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140

無線送信出力

フレーム送信で使用する無線送信出力を選択します。
無線送信出力を 0～40 (0.5dBm 単位) から選択します。
設定値と送信出力との関係は、以下のようになります。

	設定値	送信出力
2.4GHz 帯無線 LAN	0 (最小)	0.0 [dBm]
	1-16	8.0 [dBm]
	17-22	11.0 [dBm]
	23-28	14.0 [dBm]
	29-40 (最大)	17.0 [dBm]
5GHz 帯無線 LAN	0 (最小) -10	5.0 [dBm]
	11-16	8.0 [dBm]
	17-22	11.0 [dBm]
	23-28	14.0 [dBm]
	29-40 (最大)	17.0 [dBm]

使用される送信出力値は、設定した値よりも小さくなる場合があります。

無線 LAN アンテナ

内蔵アンテナを使用するか、外付けアンテナを使用するかを指定します。

省略時は、内蔵アンテナが設定されます。

SSID 非通知 (ステルス機能)

SSID 非通知を有効にすると、アクセスポイントは SSID を隠蔽したビーコンフレームを送信します。

それと同時に、無線 LAN 端末から SSID を指定しない ANY 接続に対して接続拒否 (ANY 接続拒否) します。

- 使用する
SSID 非通知を有効にすると同時に、ANY 接続を拒否します。
- 使用しない
SSID 非通知を無効にすると同時に、ANY 接続を受け入れます。

プライバシープロテクション機能

無線 LAN 端末間でのプライバシーを確保する場合は、“使用する”を選択します。

- 使用する
同一仮想アクセスポイントに繋がる無線 LAN 端末どうしの通信を遮断します。
- 使用しない
同一仮想アクセスポイントに繋がる無線 LAN 端末どうしの通信が行えます。(アクセスポイント内ブリッジ転送)

チャンネルボンディング

11n、11ac で使用する帯域幅を指定します。

2.4GHz および 5GHz で 11n、5GHz で 11ac を指定した場合にだけ表示されます。

11n で 40MHz の帯域幅を使用する場合のみ、セカンダリチャンネルオフセットの設定が必要になります。

セカンダリチャンネルオフセット

「チャンネルボンディング」を40MHzに設定した場合に使用するセカンダリチャンネルオフセットを、チャンネルのオフセットとして指定します。

「チャンネルボンディング」を40MHzに設定し、「チャンネル」に自動以外を設定した場合、本設定が必須となります。

チャンネルとセカンダリチャンネルオフセットが有効となる組み合わせは以下のとおりです。

周波数帯	チャンネル	セカンダリチャンネル オフセット	セカンダリ チャンネル
2.4GHz	1	上位チャンネル	5
	2	上位チャンネル	6
	3	上位チャンネル	7
	4	上位チャンネル	8
	5	上位チャンネル	9
		下位チャンネル	1
	6	上位チャンネル	10
		下位チャンネル	2
	7	上位チャンネル	11
		下位チャンネル	3
	8	上位チャンネル	12
		下位チャンネル	4
	9	上位チャンネル	13
	下位チャンネル	5	
	10	下位チャンネル	6
	11	下位チャンネル	7
	12	下位チャンネル	8
	13	下位チャンネル	9
W52	36	上位チャンネル	40
	40	下位チャンネル	36
	44	上位チャンネル	48
	48	下位チャンネル	44
W53	52	上位チャンネル	56
	56	下位チャンネル	52
	60	上位チャンネル	64
	64	下位チャンネル	60
W56	100	上位チャンネル	104
	104	下位チャンネル	100
	108	上位チャンネル	112
	112	下位チャンネル	108
	116	上位チャンネル	120
	120	下位チャンネル	116
	124	上位チャンネル	128
	128	下位チャンネル	124
	132	上位チャンネル	136
	136	下位チャンネル	132

以下の場合、セカンダリチャンネルオフセットでの設定は意味を持ちません。

- 「2.4GHz帯無線LAN」または「5GHz帯無線LAN」で、11b/11g/11n、11g/11n、11a/11n以外を設定した場合
- 「チャンネルボンディング」で20MHzを設定した場合

SSID

無線LANのネットワーク識別子を、32文字以内のASCII文字列で指定します。

文字列は、0x22（ダブルクォーテーション）を除く0x20～0x7eのコードで構成されるASCII文字で、0x20（空白文字）を使用する場合は、文字列をダブルクォーテーション（"）で囲う必要があります。

無線LANアクセスポイントとして動作する場合、ビーコンフレームは電波が届く範囲の無線LAN端末にアクセスポイントの存在を知らせているため、ユーティリティソフトを使用すると第三者でもSSIDを確認することができます。第三者がSSIDを無断で設定し使用してしまう可能性があるため、必要に応じてSSID非通知機能やセキュリティ機能を併用することを推奨します。

認証モード

IEEE802.11の認証モードを選択します。

- OPEN
IEEE802.11のオープン認証を行います。
- SHARED
IEEE802.11の共通鍵認証を行います。
- WPA/WPA2-PSK
WPAまたはWPA2を自動判別して事前共有キー（PSK）認証を行います。

SHAREDを指定する場合は、WEP定義が必須となります。

WPA/WPA2-PSKを指定する場合は、事前共有キー（PSK）設定が必須となります。

WEP を使用した通信

無線 LAN 端末に無線ネットワークへの接続にあたって WEP を使用させるかどうかを指定します。

- 使用しない
WEP を使用しない通信が可能になります。
- 使用する
WEP を使用した通信が可能になります。

こんな事に気をつけて

通信モードに 11b/g/n、11g/n、11a/n、11a/an/ac を指定した場合、WEP は使用できません。

WEP キー [1] ~ [4]

WEP 暗号に使用する WEP キーを指定します。

- 16 進数
16 進数でキーを指定します。
- テキスト
文字列でキーを指定します。

指定種別によって入力可能な文字数が異なります。

キー種別 WEP キー長 (IV 除く)	16 進数キー	文字列キー
WEP 64-bit (40-bit)	10 桁	5 文字
WEP 128-bit (104-bit)	26 桁	13 文字

指定した WEP キーが上記表の桁数、文字数以外の場合、設定異常となるため、正しい桁数、文字数を設定する必要があります。

文字列キーの場合、0x22 (ダブルクォーテーション) を除く 0x20 ~ 0x7e のコードで構成される ASCII 文字列で指定します。ただし、0x20 (空白文字) を使用する場合は、文字列をダブルクォーテーション (") で囲う必要があります。

使用 WEP キー

登録した WEP キーの中から実際に使用する WEP キーの識別番号を、1 ~ 4 の範囲で選択します。

暗号化モード

WPA/WPA2-PSK で使用する暗号化モードを設定します。ここで設定した暗号化モードは、認証モードに WPA/WPA2-PSK に関する設定がされているときに有効です。

- AES 暗号化
AES (CCMP) 暗号を行います。
- TKIP/AES 自動判別
TKIP または AES で自動判別して暗号を行います。

事前共有キー

WPA/WPA2-PSK で使用する事前共有キーを指定します。

- 16 進数
16 進数でキーを指定します。
- テキスト
文字列でキーを指定します。

指定種別によって入力可能な文字数が異なります。

キー種別	16 進数キー	文字列キー
事前共有キー	64 桁	8 ~ 63 文字

文字列キーの場合、0x22 (ダブルクォーテーション) を除く 0x20 ~ 0x7e のコードで構成される ASCII 文字列で指定します。ただし、0x20 (空白文字) を使用する場合は、文字列をダブルクォーテーション (") で囲う必要があります。

16 進数キーの場合、指定したキーの桁数が 64 桁に満たない部分は 0x0 でパディングされます。

3.2 オプション設定

[操作] かんたん設定メニュー「無線 LAN 設定情報」→ [オプション設定]

無線 LAN 設定情報－オプション設定

MAC フィルタリング情報

3.2.1 MAC フィルタリング情報

[操作] かんたん設定メニュー「無線 LAN 設定情報」→ [オプション設定] → [MAC フィルタリング情報]

表示条件入力

表示回数 表示範囲
10 ▼ MACフィルタリング情報は存在しません ▼

■MACフィルタリング情報
※追加情報は一覧の最後尾の入力フィールドで設定してください。

定義番号	動作	送信元MACアドレス	操作
全削除			

MACフィルタリング情報入力フィールド

動作 透過 遮断

送信元MACアドレス すべて ▼
アドレス指定("指定する"を選択時のみ有効です)

追加 キャンセル

設定終了後、追加または保存をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

“かんたん設定”では設定を終了すると、自動的に再起動され、通信を行うことができる状態になります。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

設定終了 キャンセル

動作

フィルタの動作を以下から選択します。

- 透過
条件と一致した場合にパケットを透過します。
- 遮断
条件と一致した場合にパケットを遮断します。

送信元 MAC アドレス

対象とする MAC アドレスを以下から選択します。

“指定する”を選択する場合は、アドレス指定に MAC アドレスを 16 進数で指定します。

- すべて
すべての MAC アドレスを対象とします。
- ブロードキャスト
ブロードキャスト MAC アドレスを対象とします。
- マルチキャスト
ブロードキャスト MAC アドレスおよびマルチキャスト MAC アドレスを対象とします。
- 指定する
アドレス指定に指定する MAC アドレスを対象とします。MAC アドレスは、「xx:xx:xx:xx:xx:xx」(xx は 2 桁の 16 進数) の形式で指定します。

4 パスワード情報

適用機種 SR-M50AP1

[操作] 基本設定メニュー「パスワード情報」

パスワード情報	
基本情報	ログインパスワード情報
このページでは、パスワードに関する情報についての設定ができません。	

4.1 基本情報

[操作] 基本設定メニュー「パスワード情報」→「基本情報」

■基本情報	
<input checked="" type="checkbox"/> 暗号化パスワード形式	<input type="checkbox"/> 装置固有パスワード形式にする
※装置固有パスワード形式にする設定を更新するとそれ以降、暗号化パスワード形式の修正はできません。	
設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。	
<input type="button" value="更新"/>	<input type="button" value="キャンセル"/>

暗号化パスワード形式

本装置に設定する各種パスワード文字列は暗号化されて保存されます。

装置固有パスワード形式にしない場合は、保存した構成定義情報は他装置に復元することができます。

装置固有パスワード形式にした場合は、保存した構成定義情報は自装置にのみ復元することができ、他装置に復元することができなくなります。装置固有パスワード形式にすることで、セキュリティを強化することができます。

なお、暗号化パスワード形式の設定は更新直後から有効になります。

こんな事に気をつけて

- ・ “装置固有パスワード形式にする”を選択し更新すると、それ以降、暗号化パスワード形式の修正はできません。
- ・ 装置固有パスワード形式を使用した構成定義は、他装置に復元できません。

4.2 ログインパスワード情報

[操作] 基本設定メニュー「パスワード情報」→「ログインパスワード情報」

この装置に対するパスワードを設定できます。

なお、コンソール、TELNET および FTP によるログイン時にもこのパスワードが使用されます。

■ログインパスワード情報 ?

管理者パスワード	●●●●●●●●
管理者パスワードの確認	●●●●●●●●

設定終了後、更新をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

本装置を操作するときのパスワードを設定します。

パスワード入力によって操作できる時間は 10 分間です。それ以降の操作では再びパスワード入力して処理を行ってください。なお、パスワードの設定は更新直後から有効になります。

管理者パスワード

パスワードは 0x21、0x23～0x7e の 64 文字以内で指定します。

こんな事に気をつけて

7 文字以下、英字だけ、数字だけのパスワードを設定した場合、および、管理者パスワードの設定を削除した場合は、設定および削除は行われますが、脆弱である旨の警告メッセージが表示されます。

管理者パスワードの確認

上記で指定した管理者パスワードをもう一度指定します。

5 装置情報

適用機種 SR-M50AP1

[操作] 基本設定メニュー「装置情報」

装置情報		
装置名称情報	タイムサーバ情報	装置ランプ情報
装置固有の機能についての設定ができます。		

5.1 装置名称情報

[操作] 基本設定メニュー「装置情報」 → 「装置名称情報」

■装置名称情報	
装置名称	<input type="text"/>
設定終了後、保存をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。	
保存	キャンセル

装置名称

本装置の名称を 0x21、0x23～0x7e の 32 文字以内で指定します。装置名称を設定した場合、DHCP クライアント機能で DHCP サーバにルータ名称を広報するので、DHCP サーバからはこの名称で管理することができます。

5.2 タイムサーバ情報

[操作] 基本設定メニュー「装置情報」→ [タイムサーバ情報]

タイムサーバ機能

ネットワーク上のタイムサーバから時刻情報を取得することによって、内部時刻を自動的に設定する場合は、“使用する”を選択します。

サーバ設定

使用するタイムサーバを指定します。

“DHCPで取得する”を選択した場合は、IPv4のDHCPクライアントの設定が必要です。

直接IPアドレスで設定する場合は、“設定する”を選択し、プロトコルを選択して、タイムサーバIPアドレスを指定します。

プロトコル

タイムサーバから時刻情報を取得するときのプロトコルを選択します。

TIME プロトコル

TIME プロトコル (TCP) を使用する場合に指定します。

SNTP プロトコル

簡易 NTP プロトコル (UDP) を使用する場合に指定します。

タイムサーバIPアドレス

タイムサーバのIPv4アドレスを指定します。

有効範囲)

1.0.0.1 ~ 126.255.255.254

128.0.0.1 ~ 191.255.255.254

192.0.0.1 ~ 223.255.255.254

自動時刻設定間隔

タイムサーバから定期的に時刻情報を取得するときの取得周期を0～10日の範囲で指定します。省略または0を設定すると、起動（再起動）時だけ時刻情報を取得します。

5.3 装置ランプ情報

[操作] 基本設定メニュー「装置情報」 → 「装置ランプ情報」

■装置ランプ情報	
運用中ランプ動作	<input checked="" type="radio"/> 点灯 <input type="radio"/> 消灯
消灯までの遅延時間	1 分

設定終了後、保存をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

保存 キャンセル

運用中ランプ動作

装置のランプを点灯するか消灯するかどうかを選択します。

消灯を設定した場合、電源投入またはリセット操作により装置を起動してから消灯までの遅延時間で設定されている時間経過後に装置のランプが消灯します。

消灯までの遅延時間

消灯設定時の消灯までの遅延時間を1～20分の範囲で指定します。単位は、分または秒を選択します。省略時は、1分が設定されます。

6 スケジュール情報

適用機種 SR-M50AP1

[操作] 基本設定メニュー「スケジュール情報」

スケジュール情報
構成定義切り替え予約情報

このページでは、スケジュール予約情報を設定できます。

▲スケジュール機能を使用する際には、正しい時刻が設定されているか確認してください。現在の時刻は **Mon Sep 14 17:43:17 2015** です。

6.1 構成定義切り替え予約情報

[操作] 基本設定メニュー「スケジュール情報」 → [構成定義切り替え予約情報]

■構成定義切り替え予約情報 ?

№	実行日時	構成定義切り替え予約	操作
1	-	-	<input type="button" value="修正"/> <input type="button" value="削除"/>

保存した情報は、設定反映後に有効になります。

[操作] 基本設定メニュー「スケジュール情報」 → [構成定義切り替え予約情報] → [修正]

1	実行日時	20 <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分
	動作	構成定義情報1で再起動 ▼
<input type="button" value="保存"/> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="一覧へ戻る"/>		

本装置は構成定義情報が2つ存在します。指定時刻に運用する構成定義情報を切り替えることができます。なお、現在運用中の構成定義情報は保守メニューの「構成定義情報切り替え」で確認することができます。

こんな事に気をつけて

指定時刻になると、本装置は自動的に再起動され、構成定義情報が切り替わります。その際、データ通信中の場合は接続が切断されます。

実行日時

構成定義情報を切り替える日時を西暦で2000～2036年の範囲で指定します。

動作

切り替える構成定義情報を指定します。

索引

M

MAC フィルタリング情報 14

か

画面体系 8

き

基本情報
パスワード情報 15

こ

構成定義切り替え予約情報 20

す

スケジュール情報 20

せ

設定メニュー 7

そ

装置情報 17
装置名称情報 17
装置ランプ情報 19

た

タイムサーバ情報 18

は

パスワード情報 15

ま

マニュアル構成 6

む

無線 LAN 設定情報 9

ろ

ログインパスワード情報 16

SR-M Webリファレンス

P3NK-5582-02Z0

発行日 2017年7月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の一部または全部を無断で他に転載しないよう、お願いいたします。
- 本書は、改善のために予告なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権、その他の権利、損害については、弊社はその責を負いません。